

SIG テーマ名	メトリクスお悩み相談室	SIG オーナー	小池 利和 (こいけ としかず)
SIG オーナー プロフィール	<p>ヤマハ(株) デジタル楽器事業部 商品開発部 DMI ソフト開発 G  1998 年～全社品質保証部、電子楽器開発部門で SEPG、SQA を担当  品質保証部時代に品質管理、データ分析の基礎を学び、現在のメトリクス活用の礎となっている  以下のメトリクスに関する論文、雑誌投稿経験も有り  レビューの質と価値の定量化の提案 ※記事名は即活用！「レビューの質チェック票」  <a href="http://thinkit.co.jp/article/856/1">http://thinkit.co.jp/article/856/1</a>  ソース・コード静的検証による、ソフトウェア品質評価の意義  <a href="http://techon.nikkeibp.co.jp/article/HONSHI/20100120/179432/">http://techon.nikkeibp.co.jp/article/HONSHI/20100120/179432/</a></p>		

## 対象者

- ・ ソフトウェア開発者、マネージャ、テスト技術者、品質保証スタッフなどなど、職種は問いません
- ・ 品質の可視化に興味がある方
- ・ メトリクスは測定しているが、イマイチ活用しきれていないとお悩みの方

## こんな話題でお話が出来れば

- ・ お宅の会社ではどんなメトリクスを取っていますか？
- ・ 役に立っていますか？役に立っているとすればどんな風に？立っていないとすれば何故？
- ・ メトリクスを有効活用するコツは？
- ・ これからメトリクスを計測しようと思っているが、まずはどんなことから始めれば良いか？
- ・ TEF 東海「メトリクス勉強会」とは？
- ・ もっとメトリクスやデータ分析の専門的な濃いお話をご希望の方は、情報交換会で延長戦も！

## SIG オーナーの問題意識（テーマ選定の理由）

言うまでも無いことですが、「メトリクス(=見える化)」の目的は以下と考えています。

現状把握して、状況を望ましい方向へ持っていく

もう少し噛み砕くと、以下のようなことの繰り返しだと思っています。

1. データを見る
2. 現在の状況を**正しく**解釈する ※もちろん問題が無ければこの先は必要有りません
3. **まずいと感じ**、対策を考える
4. 対策を打つ
5. 結果を確認する

私の知る範囲では、うまく行かない場合は、下線の部分でつまづくことが多いようです。つまり、対策を打つところまで行っていないので、メトリクスを計測しても何も状況の変化が無く、無駄骨となっています。

データ精度が悪いので、正しい解釈が出来ないし、信用も出来ない、と考えている人が多いようですが、それは単なる無いものねだりです。頑張って入手した貴重なデータが語っていることを最大限に活用してやろうでは有りませんか！

## 最後に

かれこれ十数年来メトリクスに拘ってきた SIG オーナーが、あなたのお悩みにきつと答えます。(と言いつつ、各社の事例やノウハウをちゃっかり聞き出そうとも企んでおります) ただし、ここで話した内容は、他へ漏らすことは有りませんので、安心して参加して頂ければと思います。

まだメトリクスの取組みが無く、特にお話出来ることは無い、という方もご安心下さい。他社の方のお話を聞いているだけでも参考になることは有りますし、これから始めよう、という気になってもらえれば幸いです。

また、TEF 東海にて「メトリクス勉強会」なるものを開催しております。そちらの紹介もしたいと考えています。

SIG テーマ名	受入れテスト(要求検証)	SIG オーナー	山本 修一郎 (やまもと しゅういちろう)
SIG オーナー プロフィール	<p>名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授</p> <p>1979年～NTT 研究所でソフトウェア開発支援環境、C/S ミドルウェア、Web-DB 連携ミドルウェア、IC カード運用管理システム等の研究実用化を主導。2002年～NTT データ・技術開発本部で要求工学研究を先導・推進。</p> <p>NTT 研究所時代にソフトウェア開発を上流から下流まで実践的に研究し、現在に至っている。</p> <p>以下の要求工学に関する書籍、論文、Web 記事、雑誌投稿経験多数</p> <p>要求定義・要求仕様書の作り方、ソフト・リサーチ・センター、2006</p> <p>ゴール指向によるシステム要求管理、ソフト・リサーチ・センター、2007</p> <p>要求工学： <a href="http://www.bcm.co.jp/site/youkyu/index.html">http://www.bcm.co.jp/site/youkyu/index.html</a></p>		

## 対象者

- ・ ソフトウェア開発者、マネージャ、テスト技術者、品質保証スタッフなどなど、職種は問いません
- ・ 要求品質の可視化と検証に興味がある方
- ・ 受入れテストは実施しているが、イマイチ安心しきれないとお悩みの方

## こんな話題でお話が出来れば

- ・ お宅の会社ではどんな受入れテストをやっていますか？(あるいは受託していますか？)
- ・ できていますか？役に立っているとすればどんな風に？立っていないとすれば何故？
- ・ 受入れテストを効率化するコツは？
- ・ これから受入れテストを系統的に実施しようと思っているが、まずはどんなことから始めれば良いか？
- ・ もっと受入れテストや要求検証の専門的な濃いお話をご希望の方は、情報交換会で延長戦も！

## SIG オーナーの問題意識 (テーマ選定の理由)

言うまでも無いことですが、「受入れテスト」の目的は以下と考えています。

顧客の期待を把握して、テスト状況を望ましい方向へ持っていく

もう少し噛み砕くと、以下のようなことの繰り返しだと思っています。

1. 顧客のオペレーションを見る
2. 現在のオペレーション状況を **正しく** 把握する ※もちろん問題が無ければこの先は必要有りません
3. **まずいところを具体的に証跡化して**、対策を考える
4. 対策を打つ
5. 結果を確認する

私の知る範囲では、うまく行かない場合は、下線の部分でつまづくことが多いようです。つまり、対策を打つところまで行かないので、受入れテストを実施してもどのような状況になっていけばいいかが不明で、無駄骨となっています。

テスト結果の精度が悪いので、正しい解釈が出来ないし、信用も出来ない、と考えている人が多いようですが、それは単なる無いものねだりです。頑張って入手した貴重なデータが語っていることを最大限に活用してやろうでは有りませんか！

## 最後に

かれこれ数十年来ソフトウェア開発に拘ってきた SIG オーナーが、あなたのお悩みにきっと答えます。(と言いつつ、各社の事例をちゃっかり聞き出そうとも企んでおります)ここで議論した内容は、一般化して工学化しますので、安心して参加して頂ければと思います。

まだ要求検証の取組みが無く、特にお話出来ることは無い、という方もご安心下さい。他社の方のお話を聞いているだけでも参考になることは有りますし、これから始めよう、という気になってもらえれば幸いです。

SIG テーマ名	鳥瞰してみましょう	SIG オーナー	野村卓司(のむら たくじ)
SIG オーナー プロフィール	三菱電機システムサービス 産業システムセンター システムエンジニアリング部 品質保証活動に従事しています。		

## 対象者

- ・ 品質保証活動全般に興味のある方。

## こんな話題でお話が出来れば

- ・ そもそも品質って何？
- ・ 品質保証活動における検証の対象は何なのか？
- ・ 開発プロセス、設計手法に適合しているだろうか？
- ・ 経験や勘、レビュー、テスト、モデル検査それぞれできることの違いは？その技術にしかできないことは？
- ・ うまく組み合わせるには？この技術を効果的に実施するには？

## SIG オーナーの問題意識（テーマ選定の理由）

テスト技法、レビュー、モデル検査と検証の為の技術があります。しかし、ソフトウェアテストシンポジウム 2010 東京で「探索型テスト/レビュー～勘と経験と探索の甘い関係」というセッションがあったように、経験も一つの要素だと思います。

各技術はそれぞれ奥深いものです。しかし、今回は、技術から離れて、どのように組み合わせれば効果的に検証できるか、効果的な組合せを実現するには品質保証担当者としてどのような知識が必要なのか、ということなどを考えてみたいと思います。

## 最後に

個別の技術については、ご参加頂く皆様の方がお詳しいと思います。私の方こそ、いろいろ教えて頂きたいと思います。

あの手、この手と組み合わせを思案する際のヒントを持って帰って頂ければ幸いです。

SIG テーマ名	テストの生産性向上を考える ～自動化、再利用、.etc～	SIG オーナー	森 孝夫 (もり たかお)
SIG オーナー プロフィール	<p>名古屋大学大学院情報科学研究科附属組込みシステムセンター研究員。  静岡大学情報学部組込みシステムアーキテクト養成プログラム講師。  半導体デザインハウスにて組込みソフトウェアの開発と検証に従事後、高信頼性ソフトウェア検証手法、RTOS のテスト手法の研究に従事。また、設計学、哲学を基礎とするソフトウェア・システム設計の教育を各地で展開中。SESSAME/TOPPERS 会員。情報処理学会正会員。日本品質管理学会正会員。</p> <p>ソフトウェアテストに関する以下の講演、論文、雑誌投稿経験有り  第 7～10 回 組込みシステム開発技術展 (ESEC) 専門セミナー講師  2004 年 7 月 9 日, 2005 年 7 月 1 日, 2006 年 6 月 29 日, 2007 年 5 月 17 日  筑波大学大学院システム情報工学研究科 高度 IT 人材育成専修プログラム  非常勤講師 (組込みソフトウェアのテスト、担当)  第 4 回世界ソフトウェア品質会議 (4th World Congress for Software Quality)  研究発表「The Viewpoint-based Software Testing Engineering Process」  Third international conference on Space Mission Challenges For Information Technology (SMC-IT)  2009 「Viewpoint-based Test Analysis For On-board Dependable Flight Software」</p>		

## 対象者

- ・ ソフトウェア開発やテストの設計、実装、実施を行った経験のある方
- ・ テストに疲れた方、何か愚痴を言いたい方
- ・ テストの仕事の「知的な部分」に力を注ぎたいという方
- ・ 泥臭い話をしたい方
- ・ その他誰でもOK

## こんな話題でお話が出来れば

- ・ 単体テストってどうすれば効率的にできるの？
- ・ テストのここが疲れる
- ・ こんなテストツールがあるとよい
- ・ テスト設計でテストを効率化できるの？

## SIG オーナーの問題意識 (テーマ選定の理由)

開発現場でお仕事していたころ、ソフトウェアテストの質をよりよくするために、もっとテストの設計のことを深く考えたいと思っていました。しかし実際のテストの仕事は疲弊してしまいかねないほど作業が多く、QCD のバランスというともすれば聞こえのよい言葉を言い訳に、どこかで思考を中断せざるを得ないことが多かったように思います。

そうした状況を打開するためには、整理できるものは整理し、自動化できるものは自動化し、技術者がその労力を本質的な「思考作業」に割り当てられるように工夫する必要があると思っています。

というわけで、「テストの生産性向上」というタイトルをつけてみました。とりあえずは、ゆる～く会話したいと思います。よろしくお願い致します。

SIG テーマ名	テストに活かすプロセス改善	SIG オーナー	足立 久美(あだち ひさよし)
SIG オーナー プロフィール	<p>1982年に株式会社デンソーに入社以来、自動車用エンジン制御装置の制御ソフトウェアの開発に従事。現在は、全社 SEPG としてプロセス改善活動に従事。</p> <p>Automotive SPICE Competent Assessor</p> <p>SC7/WG10 小委員会(プロセスアセスメント)オブザーバ</p> <p>IPA/SEC プロセス改善 WG 委員</p> <p>日本科学技術連盟SQiP研究会第6分科会「派生開発」主査</p> <p>第5回世界ソフトウェア品質会議アジア・オセアニア地域プログラム委員</p> <p>...</p> <p>著書:SEC BOOKS「改善ナビゲーションガイド～なぜなに編～」, 同～虎の巻編～(共著)</p>		

## 対象者

「日頃から以下のようなことを思っている人」と言いたいところですが、改善に興味がある方、困っている人なら、誰でも大歓迎です。 ※一名様から出発OKです。現地ではプロセス改善サポートデスクが2時間対応。

- ・ テストプロセスを改善すれば楽になれる。
- ・ プロセス改善はスタッフの仕事だ。
- ・ テストとデバッグの違いがよくわからない。
- ・ 改善なんてやってられない。

## こんな話題でお話が出来れば

「プロセス改善は、何かすごいことをすることではありません。まずは、鳥の目視点でポイントを捉えて、身近なことから、身の丈にあった改善を、コツコツと継続してやっていくものです。」

これを軸に、以下の話を織り交ぜて、参加者みなさんと議論を進めていきたいと思えます。

- ・ プロセス改善は現場が主役、スタッフがやるものではない
- ・ テストプロセスの改善だけでは救われない
- ・ 標準化／分業化の落とし穴
- ・ プロセス改善のポイント17か条
- ・ 要件定義に関するポイント17か条(「超上流から攻める IT 化の原理原則17か条」)

## SIG オーナーの問題意識 (テーマ選定の理由)

テストプロセスの改善をテーマに議論をすると、テストプロセスとは別のプロセスで改善すべき課題が多く出て来ます。テストプロセスを本当に良くするためには、テストプロセスだけを考えるのではなく、回りの関係するプロセス(特に上流プロセス)の改善もしていく必要があります。

例えば、ソフト構造設計がしっかりしていると、テストケースをかなり絞り込むことができます。「健全な魂は健全な体に宿る」といわれますが、「健全なテストは健全なアーキテクチャに宿る」といっても良いかもしれません。

## 最後に

失敗するプロセス改善の構図には、次の二首のようなものがあります。

「スタッフに 全てを任せ 依存して 自ら改善 せぬ現場」

「仕組みのみ 作れば成果と 思い込む 現場を見ない だめなスタッフ」

プロセス改善はソフトウェア開発現場にとっては本業です。プロセス改善は、本業とは別の取って付けた活動にしてしまおうとか、他人任せにするものではありません。プロセス改善は、ソフトウェア開発の一部として、ソフト開発現場の人たちが主体となり、自分たちのためにするものです。

みなさん、身近なことから、出来ることからプロセス改善をはじめませんか！

本SIGにて、なんらかの気づき(築き)が得られれば幸い(Happy)です。最後に一首！

「改善は やれることから 無理をせず 地道にコツコツ 幸積み上げる」

SIG テーマ名	人を育てる、自分を育てる ～テスト技術者育成～	SIG オーナー	古畑 慶次 (こばた けいじ)
SIG オーナー プロフィール	(株)デンソー技研センター 技術研修本部 技術研修所にて、高度技術者(トップガン)育成のための研修構築、講師を務めながら、開発現場へ派 生開発(XDDP)の技術支援、指導を手掛けている。 関連する講演および発表 ・ (株)デンソーにおける高度技術者育成 ートップガン育成の考え方とその実践ー トップガン教育「モダン・テスト・アカデミー」開設記念講演会 (2010/2/8: 日科技連) ・ 高度技術者プログラムの構築 ートップガン育成の考え方とその実践ー SPI Japan 2010 発表予定 <a href="http://www.jaspic.org/modules/event/index.php?content_id=18">http://www.jaspic.org/modules/event/index.php?content_id=18</a> ・ 混乱からの脱出 ～XDDP で現場は甦った～ <a href="http://www.juse-sqip.jp/vol11/qualityone_01.html">http://www.juse-sqip.jp/vol11/qualityone_01.html</a>		

## 対象者

- ・ テスト技術者の育成に関心のある方
- ・ 自分自身の技術力向上に興味のある方
- ・ 若手技術者の育成、部下育成、自己の技術力向上に関心があれば職種、年齢は問いません

## こんな話題でお話が出来れば

- ・ 集まって頂いた方の問題意識にあわせたテーマで議論を進めていきます
- ・ 取り巻く環境(時代)の認識と技術者育成の基本的な考え方
- ・ 現場で人が育たない・・・いったい何が問題なのか?
- ・ 技術者を育てるには何から手をつければよいか?
- ・ 業務多忙の中、どうやって人を育てるか/自分の技術力を向上させるか?
- ・ 今後、技術者として生き抜くための技術力 など

## SIG オーナーの問題意識 (テーマ選定の理由)

現場技術者は、品質を確保する2つの普遍的な技術を十分持っているとはいえません。

- ー 要求を実現する合理的な開発アプローチを設計する技術 …………… プロセス設計技術
- ー 開発アプローチの各プロセスを適切に実行するソフトウェア技術 …… ソフトウェアエンジニアリング

そのために不具合が大量に発生し、その対応に技術者は奔走する毎日を送っています。我々は、いち早く上記の技術を手に入れ、技術者本来の仕事を取り戻す必要があります。ところが、現場では組織的な OJT は形骸化し、諸先輩方(熟練者)の技術を伝承する機会はほとんどありません。一方、技術者自身も日々の対応に追われ、自分に必要な開発アプローチやソフトウェア技術について考える時間も取れていないのが現状ではないのでしょうか?

こうした現実の中で、“技術者を育てる”、あるいは、“自分の技術力を向上させる” ためには、それなりの覚悟が必要です。今回の SIG では、若手育成、部下育成、自己の技術力向上について関心のある方たちと、技術者育成(自己の成長も含む)について考えてみようと思います。

## 最後に

技術研修所の研修や開発現場でのコンサルティングを通して得た一つの確信は、「本人にやる気があって、正しい教育を続けていけば、人は必ず育つ」ということです。大事なものは、本人のやる気(モチベーション)をいかに醸成し、正しい教育(How to Teach)をどう実施するかだと思います。私が見てきた何人かの現場技術者は、あるきっかけを機に自主的な取り組みをはじめました。このターニングポイントをいかに演出するか。それぞれの技術者にあった取り組み、自分自身への動機付けをいかに意図的に仕掛けるかが重要だと思っています。

SIG の中では、“人を育てる”、“自分を育てる” 上でのキーワードとして「卒啄同時」「主体変容」を取り上げ、議論を深めています(まだ、進め方は構想中ですが……)。

<b>SIG テーマ名</b>	<b>アジャイル×テスト開発を考える</b>	<b>SIG オーナー</b>	<b>XPJUG 関西 細谷泰夫(ほそたに やすお)</b>
<b>SIG オーナー プロフィール</b>	XPJUG 関西、アジャイルプロセス協議会組込み WG でアジャイルプロセスを広める活動を行っている。 組込み開発において特に品質保証が重要視されることもあり、アジャイルプロセスにおける品質保証やテストに関心を持っている。		

## 対象者

- ・ ソフトウェア開発部門、テスト部門のマネージャ、エンジニア、プロジェクトマネージャなど
- ・ アジャイル開発における品質保証に興味のある方

## こんな話題でお話しができれば

- ・ アジャイル開発のような繰り返し型開発におけるテストをどのように考えるか？
- ・ 「目標の品質」を達成するためのテストを開発するにはどのような活動をすべきか？
- ・ W モデルとアジャイル開発の効果の共通点は？
- ・ 繰り返しの中でテストを成長させることはできるか？
- ・ 開発のコンテキスト毎のテストを考える。

## SIG オーナーの問題意識（テーマ選定の理由）

最近、開発プロセスとしてアジャイルプロセスが採用されるケースも珍しくなくなってきました。アジャイルプロセスは、短期間のイテレーションによる反復型開発により、変化する要求に柔軟に対応できる一方で、製品としてのトータルの品質をどのように保証していくかについては、十分な議論が行われていないのが現状です。

今回の SIG では、アジャイルプロセスにおいてどのようにテストを開発していけば良いかについて、議論をしたいと考えています。一言にアジャイルプロセスと言っても、イテレーション毎のリリースの位置づけの違いにより品質保証の考え方が異なってきます。この違いを意識せずしないと議論が発生してしまうため、まずアジャイルプロセスの開発コンテキストを議論し、次にそれぞれの開発コンテキストに対応した品質保証の考え方、テストプロセスの適用の仕方について議論したいと考えています。

## 最後に

どのような開発プロセスを適用したとしても、「目標の品質」を達成するために行うべき活動は本質的には同じだと考えます。今回の SIG では、その本質について議論を行い、様々な開発コンテキストにおいてどのようにテストを開発していけば良いかを考えたいと思います。

SIG テーマ名	複雑化が進むシステムの品質保証	SIG オーナー	小林 展英 (こばやし のぶひで)
SIG オーナー プロフィール	株式会社デンソークリエイティブ プロジェクトセンター システム4室 入社してから数年間は自動車のボデー系 ECU ソフト開発を担当し、その後、モデルベース開発環境の整備、ECU ソフトの標準化を支えるソフトプラットフォームの開発など薄く広く自動車のソフト開発技術に触れてきました。200x 年に AUTOSAR と出会い、以降、AUTOSAR を現場に導入して技術者が幸せになれる環境を実現する術を模索しています。		

## 対象者

- ・ プロジェクトマネージャ、ソフト設計者、ソフト実装者、テスト設計者、品質保証スタッフなど職種は問いません。また、組み込みソフト開発の経験有無も問いません。
- ・ ネットワークを介して接続された複数のハードウェアから構成される分散システムの開発手法と品質保証に興味のある方

## こんな話題でお話が出来れば

- ・ 皆さんの会社では分散システムをどのような観点や手法を用いて設計していますか？
- ・ 言い換えると品質を押さえる上でどのような設計情報が残っていて欲しいですか？
- ・ また、その設計情報はこういった工程に分けて設計されていますか？
- ・ その他、皆さんが利用している便利なツールについて意見交換しませんか？開発対象となるシステムの複雑化は今後も続くと予想されるため、ツールによる支援は欠かせなくなると思います。しかしながら、こういったツールは高価なものが多く、採用になかなか踏み出せない場合が多いと思います。実際に使用してる方の貴重な意見を共有することで、ツール採用に向けた後押しをしてもらいましょう。

## SIG オーナーの問題意識(テーマ選定の理由)

コンピュータのカタマリである自動車(とある有名なクルマは 100 個近いコンピュータが搭載されています)をはじめとして、複数のハードウェアから構成される分散システムは珍しいものではなくなってきました。今後も製品の付加価値アップのためにこの流れが止まることはないと思います。これまで日本人が作り出す品質に優れた製品は、”人と人とのすり合わせ”で支えられてきましたが、さすがに個人の努力だけでこれまでの品質を維持しながら、この流れを泳ぎ切ることは難しくなってきたと感じています。

日本の優れたモノ作りの風土を残しつつ個人の力の限界を超えないモノ作りを実現するためには、開発工程を整理し、技術者の役割を個人の目の届く範囲に取り戻すことが必要だと考えています。このためには、設計観点、およびそれに対応した検査観点を整理し、加えてそれを支える開発手法やツールを揃えていくことが重要になると思います。

AUTOSAR という名の黒船は、膨大な資料、かつ英語・・・という日本人には若干ハードルの高い技術ではありますが、モノ作りに必要な技術を体系化し、開発に必要な道具を揃えてくれています。黒船の技術に日本の優れた技術を掛け合わせ、さらに優れた匠の技術を手に入れるための議論に協力して頂けると大変有り難いです。

## 最後に

自動車のソフトウェア開発に 10 年ほど拘ってきただけのまだまだ若輩者の SIG オーナーですが、AUTOSAR というキーワードについてはそれなりの知識は揃っていると思います。AUTOSAR に関する質問は時間が許す範囲で私からお答えさせていただきます。

開発経験が少なく特にお話しできることがない、という方も気軽にご参加下さい。他社の方のお話を聞いているだけでも参考になることはきっとあると思いますし、そのお話を聞いて自分が感じた意見をお聞かせ頂ければ有益な議論になると思います。

皆さんの持つ技術と AUTOSAR というキーワードを結びつけることで、何か新しい技術の芽が見つかり、それを持ち帰って頂ければ幸いです。



SIG テーマ名	サディスティックで創造的なテストを行うために、私たちにできること	SIG オーナー	名古屋アジャイル勉強会 山本 博之 (やまもと ひろゆき)
SIG オーナー プロフィール	メーカー勤務のプログラマー。サーバー向けパッケージソフトの開発に従事。 2007 年からアジャイルソフトウェア開発の地域ユーザーコミュニティ「名古屋アジャイル勉強会」を主催。		

## 対象者

- ・ どなたでも。ソフトウェア開発者、マネージャ、テスト技術者、品質保証スタッフ、PM 支援の方など、職種は問いません。

## こんな話題でお話が出来れば

私が話すというより、参加されるみなさんでこんな話をしたいです。

- ・ みなさんの職場におけるテストとは、どのような体制で、どのように行なわれていますか？
- ・ テストはバグを見つけるつもりで行う「破壊的な行為」であり、表層的には、開発と対立する場合があります。みなさんはこの点で軋轢を経験したことはありませんか。それはどんな経験ですか？
- ・ 今日、よりよいテストとは、単なるソフトウェアに対する処置ではなく、よりよいソフトウェアを生み出すための能動的な行為であると考えられます(今回の JaSST ではテストから始まるイノベーションと言っていますね)。今日 SIG までに聞いたお話も参考に、具体的に、どのような行いが考えられますか？どのような効果が期待できますか？
- ・ それを現実のものにするために、私たちひとりひとりが、なにから始めたらいいのでしょうか？

## SIG オーナーの問題意識 (テーマ選定の理由)

今日のソフトウェア開発は、さまざまな不確実性(要求が定まっていない、技術的な冒険が必要、期間が短かくリスクが高い、等々)と対峙しなければなりません。

アジャイルソフトウェア開発では、早期からなるべく多くのフィードバックを得て、それを取り込んでいくことで、不確実性に対処しようとしています。この考え方は、アジャイル開発手法でない開発プロセスにおいても、普遍的に有効だと思われれます。

同様に、テストも、ただ純粋にバグを探す行為ではなく(それも重要なことですが)、不確実性を乗り越えるための取り組みであってほしい。

テストは破壊的でサディスティックな行為である(べき)と言われています。サディスティックでありながら、協調的であり、開発をリードする取り組みであるテスト、というものを夢想しています。

参加される皆さんと一緒に、それを現実のものとするためになにから始めたらいいのか、考えてみたいです。

## 最後に

皆さんの経験と思いの中に、答えの芽があると思っています。話し合いを通じてその芽を開くことができるでしょう。多くの人が思いをもってこの JaSST に参加されるのですから、せっかくですので、その思いを話し合ってみましょう。きっとなにかよい持ち帰りができると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

SIG テーマ名	ソフトウェアテスト初心者集合！ - 皆んなの悩みに皆んなで答えるぐるぐるマインドマップ -	SIG オーナー	TEF 東海(ソフトウェアテスト技術者交流会) 奥村 健二 (おくむら けんじ) ぐるぐるマインドマップ 加子 勝茂 (かこ かつしげ)
SIG オーナープロフィール	<p>設計部門にて、システムテストを担当。 自社でのテスト開発プロセスの実践と改善の日々。</p> <p>社外では、TEF(テスト技術者交流会)東海のお世話人としてコミュニティー活動や勉強会を定期的 に開催、昨年から JaSST Tokai 実行委員会、WACATE 実行委員会に参加。 多くの方々と、議論や意見交換をするのが好き。</p> <p>TEF ソフトウェアテスト技術者交流会 → <a href="http://www.swtest.jp/wiki/index.php?swtest.jp/wiki/forum">http://www.swtest.jp/wiki/index.php?swtest.jp/wiki/forum</a></p> <p>WACATE 若手テストエンジニア向けワークショップ → <a href="http://wacate.jp/">http://wacate.jp/</a></p> <p>東海地域でソフトウェアテストの振興を目指す。アジャイル開発に関心を持ち始めた。</p>		

## 対象者

- ・ 1 年目～3 年目の若手 テストエンジニア/品質保証(QA)担当
- ・ 初心テストマネージャ、テストリーダー
- ・ 自組織でテストチーム立ち上げ中の方、または突然、「テストチームを立ち上げろ！」という指示をくだされ途方に暮れている方。
- ・ 初めて JaSST に参加しました！という方
- ・ ちょっと、他の SIG テーマは厳しいっす・・・という方。

## こんな話題でお話が出来れば

当グループでは、Kakobon さんのぐるぐるマインドマップを利用する予定です。

参加を希望される方は、以下の様なテストに関する疑問や話題、質問、悩みなどを 2～3 つ用意してきて下さい。(当日でも OK ですよ)

<ぐるぐるマインドマップ> [http://blog.livedoor.jp/guru2mm/archives/cat\\_39201.html](http://blog.livedoor.jp/guru2mm/archives/cat_39201.html)

- ・ 自分のテストと他人のテストの違い
- ・ 本では書いてあるけど、実際現場で皆さんどうやってるの？
- ・ テストエンジニアのキャリアパスは？
- ・ テスト現場の悩み、私だけ？みんなは？
- ・ ソフトウェアテストの勉強方法が知りたい！ / おすすめのテスト本は？

## SIG オーナーの問題意識 (テーマ選定の理由)

自分の会社やり方が全てではありません。広く、社外での勉強会などに参加し交流を深めていくことが自分の成長を促します。是非、このグループから交流の輪を広げていってください。

# もし、時間内に終わらなかった場合の続きは情報交換会でー

## 最後に

テスト初心者や若手テストエンジニアが気軽にテスト現場の悩みを共有できるグループを目指します！

初歩的と思われる質問も大歓迎♪皆さんと楽しく、ソフトウェアテストに関するお話をしましょう(^)

皆さんの気になる疑問や話題をざっくばらんにお話しください。